

第10回 新渡戸稲造と札幌遠友夜学校を考える会 記念フォーラム

日時： 2022年6月19日（日）14：00～16：30 （開場13：30）
場所： 北海道大学学術交流会館 1階 小講堂
（札幌市北区北8条西5丁目 北海道大学正門から入って左手2つ目の建物）
入場料：500円／予約不要 マスク着用でのご参加をお願いします

■ オープニング

新渡戸遠友館（仮称）建設に向けて（経過・現状報告）

一般社団法人「新渡戸稲造と札幌遠友夜学校を考える会」理事長
松井 博和

■ 基調講演

北大発展の歴史と SDGs



北海道大学 理事・副学長（国際、SDGs 担当）

横田 篤

今やあらゆる活動の行動指針
となった「持続可能な開発目標
（SDGs）」。

振り返ると、
北大に学んだ新渡戸稲造博士は既に150年も前に
SDGsの精神で世界貢献を考え行動しており、今日
に至る北大の発展の歴史もまたSDGsの実践と共に
ありました。気候変動や国際的な緊張等が影を差す
中、未来をどう切り拓いていくか、広く美しいキャン
パス、さらに広大なフィールド資産を活かした北
大らしい、北大ならではのSDGsへの取り組みについて紹介します。



北海道大学はTimes Higher Education誌の「インパクトランキング2022」で総合ランキング
世界10位（国内1位）、SDGs別ランキングにおいてはSDG2（飢餓をゼロに）で世界1位
（国内3年連続1位）、SDG14、15、17でも世界17位、18位、12位に選定されています。

◆会場アクセス：JR「札幌駅」北口より徒歩7分

市営交通地下鉄南北線「さっぽろ駅」より徒歩8分、「北12条駅」より徒歩7分
<https://www.hokudai.ac.jp/bureau/property/s01/access/>

◆主催：（一社）新渡戸稲造と札幌遠友夜学校を考える会 <http://nitobe-enyu.org/>

◆共催：（一社）札幌農学同窓会 <https://www.alumni-sapporo.or.jp/> 新渡戸稲造記念遠友みらい塾 <http://enyumirai.main.jp>

◆後援：北海道・北海道教育委員会・札幌市・札幌市教育委員会・北海道新聞社・

朝日新聞北海道支社・読売新聞北海道支社・毎日新聞北海道支社・（一財）HAL財団

◆問い合わせ：Eメール info@nitobe-enyu.org / 電話 011-577-1441 / FAX 011-241-1150 / 郵便 〒060-0061 中央区南1条西5丁目8 愛生館ビル

★ このチラシは「道民カレッジ」受講生の単位認定に繋がるものですので、必要な方は保存して下さい。 ★



皆さんと共に新渡戸の思いを未来へ繋ぎたい ～新渡戸遠友館（仮称）建設募金のお願い～

「新渡戸稲造と札幌遠友夜学校を考える会」は 2013 年に法人として発足以来、稲造が掲げた自由・平等・慈愛あふれる教育と人材育成のシンボル、ならびに志を受け継ぐ活動拠点として「札幌遠友夜学校」跡地（南 4 条東 4 丁目）に記念館を建設することを目指し、講演会、読書会、学習会、記念公園美化活動等を通して本会の趣旨・活動へのご理解ご賛同を広げ、建設資金への募金をお願いしています。「札幌遠友夜学校」跡地は現在、「新渡戸稲造記念公園」として、新渡戸夫妻の顕彰碑、掲示板、花壇等に加え、昨春より（株）北海道コカ・コーラボトリングのご協賛を得て、稲造デザインを施した飲料自動販売機が設置され、この売上の一部も記念館建設資金となります。昨年は白糠町の多大なるご協力を得て、クラウドファンディングによる募金も展開しました（2021 年 12 月末で終了）。

昨年度より新渡戸の母校・北海道大学との連携構想が大きく進展し、新渡戸に倣って国際的視野を持つリーダー育成拠点として、記念館の多様な活用を計画しています。当初予定からは少々遅れておりますが、数年後の完成に向けて活動・努力を精力的に行っているところです。

本会活動は、北海道大学、ならびに札幌市、市教育委員会、大学・政財界・各種団体・企業等で活躍される著名人、新渡戸博士と関係の深い国の代表の方々、そして何より日本全国・全世界に広がる“新渡戸ファン”の熱い応援に支えられています。この紙面を手にくださった皆さまも、ぜひ私たちと一緒に“新渡戸の子”として「協働の精神によるみんなの共有・成長の場」を作る活動に加わっていただきたいと強く願っております。

記念館建設募金の詳細は、下記の本会ホームページでご覧いただけます。紙媒体でのご案内もできますのでお問い合わせください（各種問い合わせ先は表面の下部に記載されています）。

新渡戸稲造と札幌遠友夜学校を考える会 HP <http://nitobe-enryu.org/>



新渡戸稲造と札幌遠友夜学校

1862（文久 2）年 9 月、南部藩士・新渡戸十次郎の三男として盛岡市に生まれた稲造は、1877（明治 10）年、札幌農学校（現北海道大学）第 2 期生として内村鑑三、宮部金吾らと共に入学。さらに東京帝大、米国・ドイツで学ぶ。1891（明治 24）年、メリー・エルキントン嬢と結婚、同年、札幌農学校教授に就任。1894（明治 27）年、夫妻で札幌遠友夜学校を創設、生涯校長を務める。札幌遠友夜学校では 1944 年までの 50 年間に、600 人を超える札幌農学校および北大の学生らが無償で教え、5,000 人以上の子ども達が楽しく学んだ。校名の「遠友」は『論語』の「朋あり遠方より来る、また楽しからずや」と、生後 8 日で夭折した愛児「遠益」の名に由来する。

1898（明治 31）年、病気のため札幌農学校を辞任。1900（明治 33）年、米国で『武士道』を出版。その後、台湾総督府技師、京都帝大教授、第一高等学校校長、東京帝大教授、拓殖大学監、東京女子大初代学長、女子経済専門学校（新渡戸文化学園）校長を歴任し、1920（大正 9）年、国際連盟事務次長、1929（昭和 4）年、太平洋問題調査会理事長となる。1931（昭和 6）年 5 月、札幌農学校辞任後 2 度目で最後の北海道訪問時に遠友夜学校来校。1933（昭和 8）年、カナダにて第 5 回太平洋会議に参加後、10 月客死、享年 71 歳。1984 年～2007 年に発行された五千円札の肖像となる。

